

植林発祥の地

高田鉄三・・神社杉種子から植林

大野に残る最も古い植林の記録は、嘉永4年(1851)に文月の高田吉松が杉1万5千本を植えたもので、郷土史家河野常吉は明治39年(1906)の調査で「文月こそ植林発祥の地である」といつている。

吉松の長男鉄三は文月稲荷神社の杉から種子を採取し、苗木を育て植林した。鉄三が安政2年(1855)から大正4年(1915)に至る61年間に植栽した樹数は60万本に達し、うち杉は46万本に及んだ。明治初期には大野村や本郷村の人も植樹をするようになった。

名主、副戸長、学務委員など多くの公職に就いた。大正5年、74歳で亡くなった。

大正7年、道庁が開道50年記念祝典を挙げるにあたり、拓殖功労者として大野村から高田万次郎、藤田市五郎とともに、鉄三の故人3人も選ばれている。

(リーフレット「旧文月村」、
「人物」に掲載)

《「説明板」・文月》

*近年大風で倒れた神社
巨木杉の一部が郷土資料
館に展示されている。



本道西洋野菜栽培の草分け

藤田市五郎・・地域振興に努力

市五郎は、慶応元年千代田村に生れた。幼少の頃、千代田村、大野村境に開かれた松本塾に漢学を学んだ。明治11年(1878)、開校した大野学校に入学し翌年卒業した。その後農業に従事する。

20歳の時、函館に外国船の寄航が多くなり、西洋野菜の需要に応じきれない現状を知り、東京方面に赴き研究し帰村した。

温室を設けトマト、ニンジン、サンショウなど西洋野菜の栽培は本道の草分けであった。ケチャップ原料の製造にも成功した。また灌漑用水の導入など村の振興に並々ならぬ努力を重ねた。

一方村会議員を長く務め、多くの公職に就いた。

昭和18年(1943)、78歳で生涯を終えた。千代田稲荷神社境内に「藤田翁頌徳碑」が建っている。

(リーフレット「石碑」、
「人物」に掲載、個別の
「藤田市五郎」に詳しい)

《「説明板」・千代田 神社》



早期の北海道酪農

山田致人^{むねと}・・地域に貢献

愛媛県人。開拓使等に勤めたが辞して明治11年(1878)、山田致人が観音山周辺に牛数等を飼い牧場を開いた。酪農事業は長続きしなかったが酪農は北海道でも早い方であった。牛に水を飲ませた池が残り、後年中村長八郎が改修して養鯉場や水田用水の八郎沼とした。

馬車・馬橋の操作、蹄鉄の指導に当たった。公立病院設立にも尽力した。

(リーフレット「人物」に掲載)



ジンギスカン紹介

山田喜平・・めん羊振興

本郷出身。大正3年(1914)、盛岡高等農林学校卒業後、農林省に勤務し種羊技師となった。道内の種羊場長を歴任しめん羊普及振興に貢献した。

昭和6年(1931)、喜平の書いた本『緬羊と其の飼い方』にジンギスカン料理が載り、日本で初めてジンギスカンを紹介した文献とされている。

(リーフレット「人物」に掲載)

《「説明板」・本郷》

